



動き

令和3年 11月30日発行

第79号
北海道ムーブメント教育研究会会報

本年、7月に開催した夏季講習会オンラインセミナーの様子をご報告いたします。夏休みの真ただ中、最高気温34度、オリンピック期間の土曜日開催にもかかわらず、48名のご参加を頂きました。

オンラインならではの、北海道はもちろんのこと兵庫県や千葉県、福島県など全国から参加していただき、嬉しい限りでした。本研究会の初の試み、オンラインセミナー形式での開催については事務局一同、様々な不安を抱えておりました。ご参加している方々に、「きちんとよい音を伝えることができるか、身体の動きなども感じ取っていただけるか。」など心配は数々ありましたが、皆様の御協力により無事、楽しく終了することができました。

ご参加頂いた皆様には、この場を借りてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

コロナ禍でできる音を使ったコミュニケーション

講師 松川敦子先生(音楽教室講師) コーディネーター 高倉弘光先生(筑波大学附属小学校教諭)

講座1 いつでも どこでも コミュニケーション

「こ・ん・に・ち・は」の挨拶のリズム打ちからスタートした講座。物を使わず、手拍子や体の一部がすべて楽器の役割をします。先生のにこやかな表情と「間違いなんかないよ」という声かけで、一緒に参加している事務局メンバーもそのボディパーカッションにどんどん引き込まれていきました。「スイッチ!」という合図で、一人一人のリズム打ちを回していく音楽ゲームは、コーディネーターの高倉先生の声かけにより、セミナーの参加者の方々と、一緒に楽しむことができました。先生のパワーがオンライン上に広がったひと時でした。



講座2 楽器や物を使って コミュニケーション

次々に、見たことのない楽器が登場…。「いったいこれは、なに?」「おもしろい!ほしい!」というチャットの声広がりました。日ごろから敦子先生は楽しい楽器探しをしておられ、楽しい音探しに貪欲です。でも、みんなでやったアンサンブルは身近にある新聞紙やお菓子箱、はたまた、床や椅子のアームなどもOK!何でも楽器に変身してしまいます。

このアンサンブルは、クラスの子もたちといつでも楽しむことができる!と、さっそく2学期の音楽活動の意欲をもらいました。

～ 当日のチャットから ～

- ありがとうございます。子どもたちとやってみたい実践ばかりで2学期が楽しみになりました。
- アンサンブル、とても楽しい時間になりました。すごく展開が早いのに楽しいので難しい感じがしませんでした。
- まずは子どもたちが、音そのものを楽しむことが大事だと改めて感じました。今回はオンラインだったので東京からも参加できてよかったです。
- 子どもを自然に引き出すために、明るく楽しい表情と声と雰囲気、服装をすることはすごく大切な要素だと思いました。





「まったく、今の若いもんは！」

本会事務局員 筑波大学附属小学校 高倉 弘光

かのソクラテスも「まったく今の若いもんは、なっとらん！」と嘆いたそうだが、今の時代もそういう話をよく耳にする。かく言う私もそういうことを思う日も確かにある。

しかし、今日は「大したもんだ！」と続けたい。いやあ、今の若いもんは大したものだと。

報道でも大きな話題になった「ショパン国際ピアノコンクール」でダブル入賞の快挙を果たしたのは、27歳の反田恭平さんと26歳の小林愛実さん。5年に一度しか開かれないこのコンペ、しかもエントリーできる年齢制限があって30歳がリミットだそう。だから二人とも最後のチャンスだったというわけだ。日本人が入賞を果たしたのは、なんと16年ぶり、つまり3大会ぶりということだ。それまでは毎回のように入賞者が出ていたが、ここ3大会はだめだったそう。大したものではないか。NHKでも紹介されていたが、そのストイックさ。がむしゃらさ。センスの良さ。緻密な戦略。まったく彼らはすごい！

話はノーベル賞に移る。今後、日本人はノーベル賞が獲れなくなるのではないかと、言われているのは有名な話である。その原因は何か。2つあるかな、と思う。一つは研究環境が悪いこと。日本では好きな研究が思い切りできないのだそう。窮屈なルールとか研究費の貧弱さに起因する。研究や教育に関する環境は必ずしも良くないというのが日本の実情なのだろう。もう一つの原因は、科学に関する論文の被引用数の低下だ。2004年では世界第4位、2019年で第9位、2021で第10位。どんどん日本の地位が下がっていつている。資源のない国だから、爆発的な想像力、そして創造力、アイデアとかが武器だった日本だが、そこに翳りが出ていると言わざるを得ない。

こうしてショパンコンクールとノーベル賞を並べてみると、何だか面白い。芸術と科学との対比のようである。芸術は盛り上がりを見せ、科学が落ち込んでいる。いや科学は落ち込んでいるが芸術は盛り上がっている、と言った方がいいか。

私はなぜかほっとしているというか、よい傾向だと思っている。明治維新、そして第二次大戦後、日本は西洋に追いつけ追い越せとがむしゃらに頑張ってきた。それは、もちろん目に見える形で成果を挙げることが必須であった。いい生活ができるように、たくさんお金を稼げるように、GDPが上がるように頑張ってきたのだ。そして、見事にそれを成し遂げたのが昭和の時代と言えるだろう。科学が進歩し、新幹線が走り、トヨタが世界一になった。しかし、その影で芸術も頑張っていた。ショパンコンクールだって、第5回（1955年）から毎回のように日本人入賞がいた。平成時代後半に入ると日本の科学に翳りが見え始めてきた。同期するようにショパンコンクールでも入賞は叶わなくなった。日本はこのままあらゆる分野で衰退していくのか…、と思っていた矢先の今回のダブル入賞。「いやあ、今の若者は大したもんだ！」これからの日本の豊かさはどこにあるだろうか。暗雲立ち込める日本に、芸術が風穴を開けた。さて次は？ …… 私たち教育に携わる者の責任はやはり重い。

北海道ムーブメント教育研究会

令和3年度・事務局体制

会長	大坂 克之
事務局 総務	細貝 睦 (札幌市立栄町小学校)
研究	上埜 光規 (札幌市立月寒東小学校)
	高倉 弘光 (筑波大学附属小学校)
	畠山 美砂 (札幌市立西小学校)
	田尾 明子 (札幌市立北陽小学校)
	石田 晃大 (札幌市立共栄小学校)
	国府 由香利 (美深高等養護学校あいべつ校)
	西 祐子
会計	竹内 倫子 (札幌ゆたか幼稚園)
	三上 恵 (岩見沢市立南小学校)
	高澤 伊織 (札幌市立札幌苗緑小学校)

広報	稲船 志津子 (上ノ国町立滝沢小学校)
	齋藤 裕奈 (江差町立南ヶ丘小学校)
	織田 暁知 (札幌市立みどり小学校)
	佐藤 さゆり (石狩市立花川小学校)
	竹浪 恵 (札幌市立新琴似緑小学校)
	中村 真紀
会計監査	富波 修 (札幌市立新琴似南小学校 校長)
	西 宏 (札幌市立栄南小学校 教頭)
常任顧問	堀田 吉宏 (札幌市立伏見中学校)
	亀山 比佐 (北翔大学・北海道公立学校スクー ルカウンセラー)

月寒東小合唱団 2回目の全国大会出場&全国金賞の報告

令和3年11月6日に、全日本合唱コンクール・小学校部門全国大会が、埼玉県所沢市で行われました。札幌市立月寒東小学校合唱団は、月寒小学校と合同合唱団で出場し、全国大会・金賞をいただくことができましたので、ご報告させていただきます。

※月寒東小合唱団は、2017年・眞鍋なな子先生の講座、2019年・平野次郎先生の講座にモデル児童として参加し、本会会員の皆様にもお世話になりました。



8月17日 千歳市民文化センター
NHK 全国学校音楽コンクール道央地区 金賞
9月23日 東京・第一生命ホール（リモート参加）
東京国際合唱コンクール 銀賞
9月26日 小樽市民会館
北海道合唱コンクール 金賞・朝日杯
11月6日 所沢市民文化センター・ミュージズ
全日本合唱コンクール 全国金賞

コロナ禍の2020年度、合唱や吹奏楽等の各種コンクールは、中止となりました。最後のコンクールを目標としてきた最高学年の子どもたちにとって、とても辛い経験だったに違いありません。今年度は、十分な対策を講じた上で、コンクールが実施されることとなりました。NHKの規定では、2メートルの間隔を空け、マスク着用で歌うこととなります。「制限はあっても、開催されるだけありがたい。」と思い、練習を始めた矢先でした。4月末から、札幌市はまん延防止や緊急事態宣言が発令され、部活動等は停止。再び歌えなくなりました。昨年は、コンクールが無くなって悔しい思いをしたのですが、今年は「コンクールはあるのに、練習ができない。」という苦しい状態だったのです。そこで、新たな取り組みを始めました。「zoom」を活用した練習です。みんなで合唱することはできませんが、一人一人の声を聞くことはできます。歌い方について、みんなで話し合うことはできます。できないことよりも、できることに目を向けて、みんなで集まれる日を待つことにしました。全体練習ができたのは、7月27日、地区大会3週間前でした。そこから、子どもたちは一気に上達します。結果として、なんと3つの金賞をいただくことができました。また、昨年度の卒業生と共に、リモートで参加した東京国際合唱コンクールでは、銀賞をいただくことができました。このような世の中でも、音楽の灯を消すまいと、動いてくださった方々のおかげです。感謝しております。

気兼ねなく歌える世の中に戻り、皆さんに歌声を聴いていただける日を楽しみにしております。それまで、歌唱・合唱における「ムーブメント実践」を積み重ねておきたいと思っております。なお、本会ホームページに合唱の関連リンクがありますので、お時間のあるときに、ぜひご覧ください。

鑑賞で大切にしたいことは、「繰り返し聴かせること」です。旋律を覚えて鼻歌が出る・・・そこまでできれば、子どもは授業で学ばせたい内容のほとんどを聴き取ってしまいます。ただし、楽しく聴くために一工夫。

ベートーベン作曲「トルコ行進曲」(教芸2年)では、【**旋律(曲)に合わせて足踏みしましょう。**】と指示します。低学年の子なら効果てきめん。喜んで足踏みします。でも、これではただ歩くだけ。さらに、次のように発問します。【**この行列は、時々向きを変えます。どこで変えるでしょうか。**】もう一度足踏みさせると、フレーズの終わりで向きを変える子が現れます。それを見付けてほめます！慣れてきたら、【**旋律(曲)に合わせて歩きましょう。**】フレーズで向きを変えながら、曲に合わせて行進します。ただし、楽しくなっちゃって「羽目を外す子」が出るかも知れません。テンポを無視して走ったり、友達にぶつかったり。そういう時は・・・黙って曲を止めます。そして、次のように言います。【**曲に合っていない人がいますよ。合わせて歩きます。**】ここで上手な子をはめると、なお効果的。できていない子を指摘するよりよっぽど効きます。



この曲は、終わりに近付くと徐々に音が小さくなっていきます。勘のよい子は急に歩きがゆっくりになったり、体を縮めたりします。(困って立ち止まる子、全く気付かない子も当然います！それでいいのです。)そこで、【**今、体を小さくして歩いた人がいました。どうしてですか。**】と問います。子どもは「音が小さくなったから。」などと答えます。もう一回、聴いて確かめます。この後、大切な発問をします。【**最後、行列はどうなったと**

思いますか。】すると、「遠くに行った。」「見えなくなった。」という発言が出るはず。」「止まった。」という子もいるかも知れません。「音が小さくなったこと。」と結びつけて発言できることが大切です。

最後は感想を書かせて終わり・・・ではないです。次の音楽の時間も、また曲をかけます。せっかくの学習を生かさない手はありません。子どもは歩いたり、しゃがんで歩いたり。同じ動きをしながら、繰り返し曲に親しみます。さらに、【**曲が終わるときに、ぴったり席に着きましょう。**】と指示しておきます。これで、トルコ行進曲も立派なレパートリーです。

～ 令和3年度 冬季講習会開催要項 ～

1. テーマ **「コロナ禍で見た新しい音楽授業のカたち」**
講師：高倉弘光先生(筑波大学附属小学校 教諭)
2. 日時 令和4年1月7日(土) 13:00～16:00
3. 会場 札幌市立栄町小学校
〒007-0836 北海道札幌市東区北36条東13丁目3-1
TEL: 011-752-4130 (札幌市営地下鉄・東豊線「新道東駅」より徒歩5分)



4. 日程

12:30～	受付
12:55～	開会式
13:00～	第1部「歌唱とムーブメント」
14:45～	第2部「鑑賞とムーブメント」
16:00	閉会式

本会作成、GIGAスクール対応実践資料のお土産も・・・!

現時点では、会場にて開催予定ですが、感染状況の拡大によっては、zoomを用いたオンライン開催に変更する場合があります。

5. 主催者 北海道ムーブメント教育研究会
事務局 札幌市立栄町小学校内(細貝)
〒007-0836 札幌市東区北36条東13丁目3-1 TEL: 011-752-4130
6. 後援 札幌市教育委員会(申請中)
7. 参加費 一般3000円、会員・学生2000円
8. 申込み 札幌市立月寒東小学校・上埜光規まで TEL 011-851-7924
ホームページからお申込みください。